

スーパーマン？敗北者？—いやしと十字架のイエス様

西南学院大学神学部教授 須藤伊知郎

講演①「いやしのイエス様—奇跡物語」

1. はじめに

去年は「『神の国』ってなあに？」、イエスの「神の国」のたとえについて
イエス伝承、言葉と物語

今年は物語について、いやしのイエス様（奇跡物語）と十字架のイエス様（受難物語）

2. 規定の病を患っている人のいやし（マコ 1:40-45）

2.1. レプラの訳語

「らい病」（文語訳、口語訳）→「重い皮膚病」（新共同訳）

→「規定の病」（聖書協会共同訳）／ツアラアト（新改訳）

2.2. 文化人類学的視点

ケガレ、清さ、聖

接触によってケガレが感染るのではなく、イエスを通して聖なる力が
拡がる

2.3. 社会復帰

単なる疾病の治療ではなく病のいやし

「祭司に体を見せ、モーセが定めたものを清めのために献げて、人々に
証明しなさい。」

3. ゲラサの悪霊憑きのいやし（マコ 5:1-20）

3.1. なぜ豚の群れが湖で溺れ死ぬのか

資料批判（元来の悪霊祓いの物語が二次的に豚の逸話で拡大された）

深層心理学（豚の群れは分裂している患者の心を象徴している）

3.2. 社会史的解釈

ゲラサ、ガリラヤ湖から 50km 以上離れている、経済的・軍事的拠点

レギオン、ローマ帝国第 10 軍団「海峡隊」、旗印は猪＝豚

3.3. ポストコロニアル視点と解放の神学

ローマの軍事的植民地支配に対するユダヤ民衆の憎悪と怒りの表現

「悪霊祓いの信仰は神話的なものに転移された解放の行為」（G. TheiBen）

4. 長血の女性のいやし (マコ 5:25-34)
 - 4.1. 「長血」ケガレ、清浄規定 (レビ 15:25-28, 31)
 - 4.2. 女性の辿った道

古代における医療、高度な医学はあったが恩恵を受けられるのは富裕層に限られ、民衆は民間療法、呪い師、祈禱師に頼った
 - 4.3. 接触、出会い

「群衆の中に紛れ込み、後からイエスの衣に触れた」
「イエスは自分の中から力が出て行ったことに気付いた」
接触によってケガレが感染るのではなく、聖なる力が拡がっていく
 - 4.4 「信仰」

イエスの力が救った、のではなく、「あなたの信があなたを救った」
信、信頼、信仰

5. シリア・フェニキアの女性の娘のいやし (マコ 7:24-30)
 - 5.1. なぜイエスは最初、女性の願いを退けたか

伝記的説明 (イエスは直前の出来事で民に幻滅していた)
範例的説明 (試みられた信仰の模範)
救済史的説明 (個別民族主義の克服をめぐる葛藤の記録)
 - 5.2. 社会史的解釈

「テュロスとシドンの地域」(7:24 ECM)
裕福な商業都市フェニキアの後背地、飢饉などの危機的状況では財政的に強大な都市が穀物を買占め、周辺の農村地帯が疲弊、
 - 5.3. フェミニスト視点と民族差別の克服

当時のイスラエル中心の視線、異邦人の、しかも娘の病のために「ケガレた」と見做される女性が律法の教師にいきなり近づくのは非常識
終わりの時の異邦人のシオンの山への巡礼の先取り
圧倒的な神の恵みに対する信頼の言葉を聞いて、イエス自身が自民族中心主義から普遍主義へ

6. このイエスはスーパーマンなのか？ 受難物語では敗北者のように見える

講演②「十字架のイエス様—受難物語」

1. イエスの死をどう捉えるか
 - 1.1. 対照図式 (使 2:22-24; 3:15; 4:8-10; 5:30 他)
 - 1.2. 救済史的・原因論的図式 (ルカ 24:25-27; 1 コリ 15:3b-5 他)
 - 1.3. 救済論的・目的論的図式 (ロマ 4:25; 5:6, 8; 8:32 他)

2. 前マルコ受難物語

2.1. マルコ受難物語とヨハネ受難物語の比較

2.2. 人の子「イエス」が「夜」「引き渡される」物語が晩餐の設定の言葉と共に語られていた

1コリ11:23-24「私があなたがたに伝えたことは、私自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りを献げてそれを裂き、言われました。『これは、あなたがたのための私の体である。私の記念としてこのように行いなさい。』」

イスカリオテのユダ→祭司長たち→ピラト→百人隊長

(対照図式の人間の側)

3. 主の晩餐の設定の言葉

3.1. イエスの最後の象徴行動

3.2. 伝承の過程で解釈句が付加されていった。

パンの言葉：「あなたがたのため (ὕπερ ὑμῶν hyper hēmōn)」

(1コリ11, 24)

杯の言葉：「契約の」(マコ14, 24)、「新しい契約」

(1コリ11, 25)、

「多くの人のために (ὕπερ πολλῶν hyper pollōn) 流される」

(マコ14, 24)

=「みんなのために」(לְרַבִּים lārabbîm)

3.3. 「みんな」とは？

晩餐の席にいた弟子たち→晩餐式に集まっているみんな→人類みんな
代理の死、まだ贖罪の解釈は明白には打ち出されていない

4. 「人の子は人々の手に渡される」(マコ9:31)

4.1. 「～の手に渡す」「主の戦い」の術語

神が敵をイスラエルの手に渡す

神がイスラエルを敵の手に渡す

4.2. 人の子が人々の手に渡される(神的受動態)

=神が人の子イエスを人々の手に渡す

イエスの受難は神の意志、計画に基づく(救済史的・原因論的図式)

5. 聖書の預言の成就

マコ14:18, 20, 21=詩41:10、マコ14:27=ゼカ13:7、マコ14:34=詩

42:6, 12; 43, 5; シラ37:2、マコ14:52=アモ2:16、マコ14:56-57=申19:15

マコ15:23=詩69:22、マコ15:24=詩22:19、マコ15:27=イザ53:12、マコ

15:29=詩22:8; 109:25、マコ15:30-32=知恵2:17-18、マコ15:34=詩

22:1、マコ15:36＝詩69:22（救済史的・原因論的図式）

救済論的・目的論的図式は？

6. 福音、福音書

6.1 イザ52:7「良い知らせ」「あなたの神は王となった」

6.2. マコ1:1「神の子イエス・キリストの福音の初め」

イエスが油注がれた者＝イスラエルの王であるという良い知らせ

そのイエス・キリストが神の子であるという良い知らせ

7. 「神の子」

7.1. 「神の子」 divi filius は死後に神格化された先帝の息子、その戦場での勝利の知らせが「福音」

7.2. マルコ福音書

ローマ皇帝が「神の子」（スーパーマン）だという王のイデオロギーの「福音」に対抗、

イエス・キリストが「神の子」であると宣言する対抗「福音」

8. 十字架の神学

8.1. 十字架刑＝「神の子」ローマ皇帝に逆らう反逆罪に対する見せしめの刑罰

8.2. その十字架に付けられた（敗北者）イエスこそ「神の子」であるという逆説

この十字架の神学を提示するために、マルコは受難物語を頂点とするイエスの公生涯を描く「福音書」という文学類型を初めて創出

9. 神は不在であり、沈黙しているのか？

9.1. 「神の前で、そして神と共に、我々は神なしで生きる」（ボンヘッファー）

9.2. 神の声

マコ1:11 「あなたは私の愛する子、私の心に適う者」

9:7 「これは私の愛する子。これに聞け。」

15:39 「これは私の愛する子」

「まことに〔アーメン〕、この人は神の子だった。」

福音書の読者は、この百人隊長の告白を通して今も響いている神の声を聞き、これに「まことに (ἀληθῶς/ἴσως)」と応答し、「この人は神の子だった」と告白することを促される。